

2019-20 年度 第 1 回 インターアクト小委員会 議 事 録

開催日時 2019 年 6 月 7 日 (金) 18:30～ 20:30

開催場所 ガバナー事務所会議室

議事録作成人 委員長 中本 広太郎

次 第

1. 開会 RID2680 2019-20 年度 IA 小委員長 中本 広太郎

2. 挨拶 RID2680 ガバナーエレクト 浅木 幸雄

3. 出席者 (正確に記録してください)

浅木幸雄 GE、村尾憲一郎次期代表幹事、藤井恵一次年度社会奉仕副委員長、
坂東隆弘次年度社会奉仕副委員長、中本広太郎次年度 IA 小委員会委員長、
IA 小委員会委員：武井宏之(神戸西)、宇賀浩生(神戸須磨)、大谷秀明(神戸中)、
三木健義(姫路)

オブザーバー：大西義文(西脇)、山邑太左衛門(神戸)

4. 審議事項及び協議事項

① 審議内容及び協議内容

会長幹事研修会について、地区年次大会について、

② 意見

会長幹事研修会

坂東次年度社会奉仕副委員長より、4 年前から毎年 6 月に次年度の委員会で開催している行事で、インターアクター、提唱 RC クラブ、学校 (校長および顧問の先生) が一緒になってインターアクトクラブについての理解を深めて、次年度の活動が活発に行われるようにすることが目的である。

顧問の先生の意識改革にもつながるので次年度以降もぜひ続けていってほしい。

村尾次期代表幹事より、インターアクトが活発に活動せず低調になってくるのは、提唱クラブに問題があると理解していいのか？ 世話をしないにもかかわらず、イン

ターアクトクラブを維持する理由は何か？

やる気がないなら止めてもらって構わないのではないか？そのような状況で地区委員会がテコ入れをしたら、さらに提唱クラブのやる気を削いでしまうことにならないか？まずは RC のスキルアップが必要なのではないか？

となると、提唱クラブを本格的にこのプログラムに取り組み気にさせるのが第一ではないか？学校（顧問の先生）と地区の間の熱意だとかはその次の問題ではないか？

三木次期インターアクト委員より、提唱 RC が一生懸命になるのは一番望ましい事ですが、やはり学校にも目的を理解してもらわないとなかなかうまく進まない。3 者の共通認識が必要。

宇賀次期インターアクト委員より、学校は先生が代わったり学校方針が変われば対応がコロッと変わってしまう。やはり、年次大会や会長幹事研修会など伝えていく機会は重要。

村尾次期代表幹事 一律の機会の一部の人への研修がロータリアンを育てるとは思わない、自分で学ぶべきだ。

地区年次大会について

中本次期インターアクト小委員長、本日 6 月 7 日に地区年次大会の案内のたたき台が柏原 RC から出されましたが、ガバナーは来賓で主催が地区インターアクト委員会、世話クラブが氷上高校 IAC、その提唱クラブが柏原 RC という内容になっていますが、あくまでも地区行事はガバナーが主催であり、そしてホスト IAC とその提唱 RC が共同主管として責任の所在をはっきりさせるべきだと思います。次年度地区年次大会は主催ガバナー浅木幸雄、主管氷上高校 IAC、共同主管柏原 RC としたいと思います。

村尾次期代表幹事、次年度以降の事もあるので整理して皆さん合意の下でちゃんとやっていきましょう。案内の送付にしても慣例なのかガバナー事務所に丸投げの形になっているが、本来は主催者であるガバナーから依頼を受けた主管が、企画運営だけでなく、案内の発送、出欠のとりまとめまですべてやって、はじめて勉強になるのではないか？

坂東次期社会奉仕副委員長、慣例でやってきたことではないが、間違っているのでちゃんと訂正します。

山邑地区委員会担当幹事、年次大会の内容についても、理念をもって取り組んで、

地区としての在り方を決めるべき。高校生中学生を対象にワークショップが医療、観光、マーケティングっていうのは高校生中学生に考えさせるワークショップとしてふさわしいのか？そこに理念はあるのか？

藤井次期社会奉仕副委員長、次年度年次大会を日帰りにするか泊りにするかも含めてここで決めてしまっってはどうか？

三木次年度インターアクト委員、2680 地区は兵庫県全体と範囲が広いので、全インターアクターが集まるとなると日帰りでは成立したとしても帰宅時間がかかり遅くなる人たちもいると思われるので、その辺も考慮したほうがいいのでは。

浅木ガバナーエレクト、次年度年次大会は責任は主催者である私にあり、主管である氷上高校 IAC と提唱 RC の柏原 RC に委託する形で、1泊2日で行うこととしましょう。

村尾次期代表幹事、予算についても奉仕プロジェクトの補助金申請がなされるかと思いますが、無駄が多い。次年度からは奉仕プロ補助金もシステムが変わるので、従来のまま申請されても、自動的にそのまま出せるかどうかはわからない、場合によっては減額を要請するかもしれない。奉仕プロではなく本会計で予算化してはどうか？

坂東次期社会奉仕副委員長、予算について、講師料 20 万円というのは高すぎる。大学の研究室に丸投げのやり方で、氷上高校が決めているのでなかなか言いにくいですが、ここはローターアクトを使うなど工夫して減額したい。

表題の主催、主管のところの訂正、内容的にはワークショップのところ、その見直しに伴った予算、奉仕プロに補助金申請する予定の 40 万円の減額、少なくとも大学に払う 20 万円の見直し、そして、主管である氷上高校 IAC と共同主管の柏原 RC の仕事内容の徹底、案内の送付から出席者とりまとめ、運営管理まで主管が受け持つこと。

③ 結論（継続審議及び協議をする場合、結論までの期限を設定してください）

今後のインターアクト地区行事の責任の在り方を、主催はガバナー、主管がホストインターアクトクラブ、共同主管がその提唱ロータリークラブで、主管が企画運営、案内の発信、集計に至るまですべて受け持つこととする。

次年度年次大会については、責任は主催者であるガバナー浅木幸雄にあり、主管である氷上高校 IAC と提唱 RC の柏原 RC に委託する形で、1泊2日で行うこととする。

坂東次期社会奉仕副委員長を中心に主管である氷上高校 IAC と柏原 RC で、①案内

状の主催と主管をはっきりと明記する。②ワークショップの内容を見直して奉仕プロ申請予定の予算 40 万円を少なくとも 20 万円は減額して、本会計からの拠出も考える。③主管者の仕事の内容をはっきりさせ案内の発送、出欠のとりまとめ、企画運営まですべて受け持つこととする。以上を見直しし、訂正することとする。

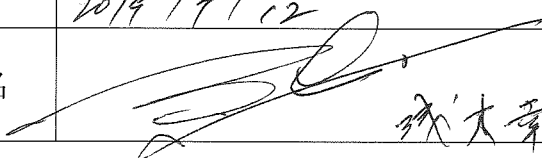
6. 総評

藤井次期社会奉仕副委員長、今までこのような委員会はやったことがなかったと思います。本気で根底から考え直そうという気が伝わってきました。このような機会を通じてロータリーライフの中の普段見過ごしているものを見つけられるのではないかと思います。今後とも、浅木年度のために皆様のお力をお貸しください。

7. 次回開催日時・場所

2019 年 7 月 12 日 神戸ポートピアホテル 7 階 ガバナー事務所会議室

8. 閉会

議事録確認日	2019/7/12
ガバナー署名	 高橋 大幸